

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成30年6月発行 NO-66

地域リハ支援センター

平成30年度リハビリテーション専門研修スタート!

見て・触れて・感じて学ぶセラピストのための研修

◆セラピストのためのハンドリング入門◆

ハンドリングを行うための基礎となるセラピストの構え、触れ方・動き方と、歩行誘導の基礎となるステップ動作の誘導、そしてアクティビティへの介入を行うにあたっての、タッチの仕方や、上肢と体幹・下肢との関係や、上肢とバランスの関係について実技を交え体感しながら学習しました。



【講師】 神奈川県立保健福祉大学 教授 玉垣 努氏
神奈川県リハビリテーション病院 理学療法科 浅沼 満 田代 宙
【実技指導】 神奈川県リハビリテーション病院 作業療法科 井上彰太

◆脳血管障害の評価と治療◆



”潜在性を引き出す“をキーワードにした脳血管障害の評価と治療について、講義と実技を通じて学習しました。治療の基本的な考え方から治療の目標考え方、ハンドリングのポイント、そして、一日の最後にはグループワークで課題について話し合い、理解を深めました。

【講師】 Fリハビリテーション平塚 理学療法士 藤井 誉行氏
【実技指導】 神奈川県リハビリテーション病院 理学療法士 鍋島香峰子

頭で納得！
身体で納得！

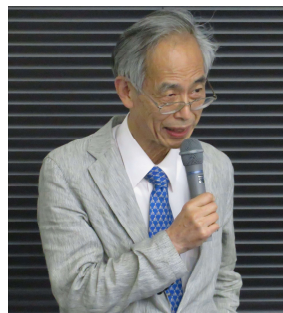
医師・リハ職から学ぶ研修

摂食・嚥下障害のリハビリテーション

嚥下障害の医学的な評価と治療から、実技を交えながらの、嚥下のメカニズムとおいしく食べるための環境づくりのポイントについての講義があり、体験を通して、車椅子姿勢の見方や修正の仕方、介助方法など明日から即実践できる内容が盛りだくさんの研修でした。

【講師】 耳鼻咽喉科 医師 伊藤 裕之氏

神奈川リハビリテーション病院 作業療法士 露木 拓将
地域リハビリテーション支援センター 理学療法士 小泉 千秋



股関節症のリハビリテーション

医師から変性股関節症とは何か、診断基準、手術療法、保存療法など日頃なかなか聞くことが出来ない医学的な講義があり、理学療法士からは、リハ的視点で症例を通しての実践的な見方や考え方などについて、実技を交えた講義がありました。

【講師】 神奈川リハビリテーション病院 整形外科 医師 杉山 肇

理学療法士 丸岡 知昭 森田 融枝 本田 博基



(一木 愛子)

かながわ地域リハビリテーション支援連絡会

平成30年6月12日(火)横浜市総合リハビリテーションセンターで「第19回かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」が開催されました。今回は、各参加機関から地域リハビリテーションへの取り組み状況の報告を行いました。在宅障害児者への支援に関して、横浜市は「在宅リハビリテーション事業(市単事業)」の枠組みで実施しており、近年はALSへの早期介入を保健師や基幹病院と連携しつつ実施しています。川崎市も更生相談所やれいんぼう川崎が窓口となって「在宅リハビリテーションサービス事業」を行っており、特に北部・中部リハビリテーションセンターの在宅支援室は民間の相談機能と行政の更生相談所機能が同室で一体化し、連携した支援を行っています。相模原市は、更生相談所が補装具等の判定業務を行っており、H36年度の総合療育センター開設に向けた構想は計画されていますが、総合リハセンター開設の動きは見られていないとのことでした。

私たち、地域リハビリテーション支援センターは県域の30市町村を対象としたリハビリテーション専門相談を実施しています。今後も、市町村毎の地域包括ケアや障害福祉、介護保険サービス、職域団体の動向に関する情報交換を行いつつ、各地域の実情に沿った二次支援(地域の障害児者への直接的支援ではなく、支援者を支援することでの後方的支援)の在り方を検討していきたいと考えています。



(瀧澤 学)

長期的な視点を踏まえた対応

リハ専門相談で対応する症例は様々ですが、特に対象者の年齢が若い場合には、今後の経過をみこして長期的な視点に基づく対応が必要になります。今回はその観点から対応した2症例を報告いたします。

症例1 支援要請機関：相談支援事業者 対応職種：SW、PT、OT

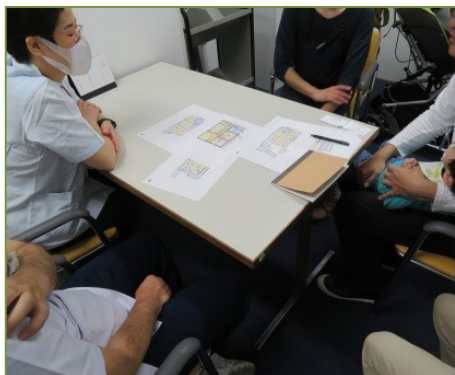
脳性マヒのケース、自宅の新築に伴い今後想定される生活に合わせた住宅環境や福祉用具について、相談支援事業者様を通じてご両親と共に来院して相談がありました。ご本人はまだ幼児ですが、成長した際の介助などの生活負担を減らすために、SW、PT、OTが対応しました。居室や寝室、浴室やトイレの間取り、屋内外への車いすを利用した移動方法、リフター設置する際の場所など具体的な項目に対して検討し、現状考えられる案を提示しました。また、福祉用具のイメージをつけるために、来院の際、ご両親にはリフターの操作や乗車体験の実施、療育園や自立支援ホームの見学を行いました。実際の福祉用具の体験や現場を確認することで福祉用具のイメージをつかめたと思います。

症例2 支援要請機関：訪問ヘルパー事業所 対応職種：SW、PT、OT

症例は当院外来に通院している脳性マヒのケースです。今まではご家族やヘルパーで移乗や入浴を対応してきましたが、徐々に身体への負担が増えています。訪問ヘルパー事業者様のご依頼で介助方法や福祉用具の検討のため、SW、PT、OTがご自宅に訪問しました。現状の介助方法を実際に確認し、上肢の支持の位置や移乗について負担の少ない方法を提案しました。また、今後のことを踏まえ居室や浴室にリフター導入を検討するとともに、通院時には実際にリフター乗車体験を行いました。

2症例ともに、将来にわたりご自宅で生活していくためには、ご本人やご家族ともに安全で負担の少ない生活が望ましく、それを実現するための提案をさせていただきました。専門相談では現状の問題への対応だけでなく、今後想定される問題を踏まえた対応をしていければと考えております。

(小泉 千秋)



H30年度4～6月リハ専門相談実績(6/15時点)

4～6月(6/15時点)	新規	継続	電話	訪問	来所	メール
脳性麻痺	6	26	24	5	3	0
神経・筋疾患	4	5	5	0	2	2
脳血管障害	3	1	4	0	0	0
脊髄疾患	5	0	4	0	1	0
脊髄損傷	4	6	7	1	2	0
骨関節疾患	1	1	2	0	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	2	3	2	1	0	2
知的障害	2	1	2	0	1	0
内部疾患	0	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	3	1	3	0	1	0
合計	30	44	53	7	10	4

4～6月(6/15時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	2	2
環境整備	0	3
身体機能評価	5	2
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	0	0
介護指導	0	1
支援内容検討	0	1
医療	0	1
その他	0	0
合計	7	10

平成30年度 第1回政令市と神奈川リハの情報交換会

平成30年5月25日に相模原市南保健福祉センターにて、今年度1回目の政令市と神奈川リハの情報交換会を行いました。県障害福祉課、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市（北部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、高次脳機能障害地域活動支援センター、中部リハビリテーションセンター、南部地域支援室）、相模原市（障害政策課、ぶらすかわせみ）の方々と情報交換を行いました。

情報交換では、家族会との協働、研修、地域の支援等についての話題が出ました。研修については、地域により体制が異なりますが、研修を長く行ってきている地域では内容のブラッシュアップが必要であること、行政が中心となり、支援者向けの専門的な研修を開催していること等について話が出ました。当センターでも高次脳機能障害セミナーを年間4本開催しておりますが、毎回内容を検討しながら行っています（下記参照）。地域の支援については、神奈川リハビリテーション病院の外来でのグループ訓練の内容を再構築しているところですので、最終的には地域でも利用していただけるような形で、プログラムのパッケージ化が出来ればと考えています。今後も神奈川全体で支援を盛り上げていけるように頑張ります。（佐藤 健太）

高次脳機能障害のリハビリテーション

第1回 「高次脳機能障害が難しい理由は…？」

Hi、みなさん。昨年、英国で高次脳機能障害のリハを勉強する機会に恵まれました。このコラムでは、その経験も交えながら、高次脳機能障害のリハについて数回に分けて説明をさせていただこうと思います。

よく高次脳機能障害は難しいと言われます。これはなぜか。幾つか理由がありますが、最大の理由は従来の考え方では処理ができず、発想の転換が必要になるからだと思います。例えば、代表的な疾患である脳外傷者の場合、ざっと挙げても以下のような様々な症状を伴います；注意障害、記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害、身体の症状、コミュニケーションの問題、意欲の問題、不安、などなど。加えて、家族や職業の状況、受傷前の状態や性格も無視できません。そして、これらの症状は相互に作用をするため、それが状況をさらに複雑にします。リハを考える上では、各々の症状を良くすることだけを考えるのでは全く足りず、これが高次脳機能障害のリハを難しくしている大きな原因になっています。

医学は多数の要因が絡む問題（これは答が一つではない問題と言い換えることもできます）を考えることには慣れてなく、これまでではむしろ避けてきたところがありました。ただ、いよいよこうした問題にも焦点が当てられるようになってきています。例えば、慢性腰痛なども（慢性の腰痛は原因が一つでは全くないので）近年は同じような考え方をするそうです。従来の「一つの原因に対処していく」考え方では対応できない分野があることを知っていただけましたら嬉しいです。（to be continued）（青木 重陽）

高次脳機能障害セミナーのご案内

7,8月のセミナーでは、当事者・家族の登壇を予定しており、支援者の話だけではなく、当事者・家族の視点からの体験談を聞く貴重な機会になると思います。詳しくはホームページでご確認を。（佐藤 健太）

高次脳機能障害セミナー ー小児編ー 「安定した地域生活を目指して～教育・活動・家庭～」	7月14日(土)	おださがプラザ
高次脳機能障害セミナー ー理解編ー 「高次脳機能障害とともに生きていく」	8月25日(土)	神奈川県総合医療会館

※その後の予定 12月：実務編 平成31年1月：就労支援編

編集後記：スロースリップ、大阪地震などなど、最近では地面が揺れることが多く、ひやひやします。2018年版地震動予測地図では東京、神奈川は80%以上の確率で震度6弱以上の地域が多く怖いですね～。単に高齢化の問題だけでなく災害対策にも地域包括ケアが必要です。様々なことに地域づくりが必要です。梅雨、そして猛暑がくるようですが、負けずに皆さんと地域リハを推進していきましょう。（泉 忠彦）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601